

早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 10月分

【10月の概要】

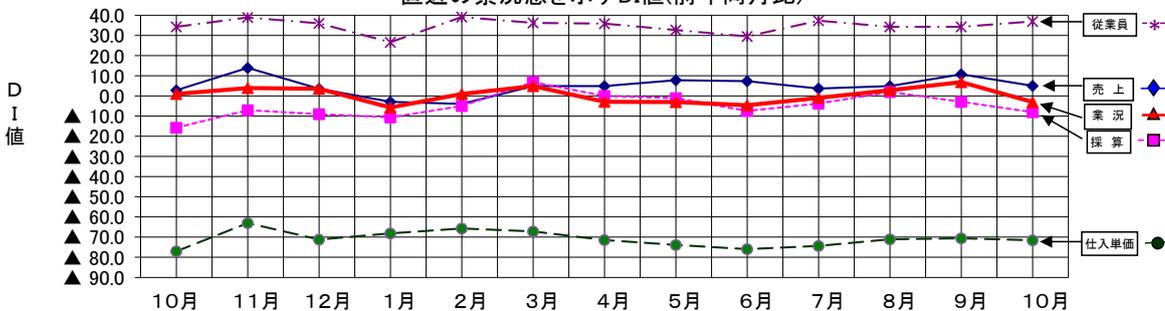
直近、先行き見通しともに、全体的に悪化傾向 最低賃金上昇と国のエネルギー料金補助終了の影響大

直近の景況感を示すDI値は、「売上」が▲5.8ポイント、「採算」が▲5.1ポイント、「業況」が▲9.9ポイント、「仕入単価」が▲0.9ポイント、「従業員」が▲2.7ポイントと、5指標全てで悪化を示した。なかでも「業況」は特に大幅に悪化しており、3か月ぶりにマイナス水準へと転じた。

先行き見通しを示すDI値は、「仕入単価」が0.1ポイントの改善を見せたが、その他4指標は悪化。人件費・原材料・電気料金等の高騰に加え、国のエネルギー料金補助が10月まででストップすることも影響しているのか、「業況」は▲11.9ポイントと2桁台の悪化となり、3か月ぶりにマイナス水準へと転じた。

コメントからは、人手不足に加え、仕入れコストおよび人件費高騰の深刻さが窺える。取引先と最終消費者の理解を得ながら価格転嫁していけるかが最大の課題という声もある。

直近の景況感を示すDI値(前年同月比)



【直近の景況感を示すDI】 ※DI(景況判断指数: Diffusion Index の略)=(良い割合)-(悪い割合)
※従業員=(不足)-(過剰)

	2023年10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	2024年10月
売上	2.9	14.0	3.6	▲2.9	▲3.9	4.9	4.9	7.9	7.4	3.7	4.9	10.8	5.0
採算	▲15.7	▲7.0	▲9.0	▲10.5	▲4.9	6.9	0.0	▲1.0	▲7.4	▲3.7	2.0	▲2.9	▲8.0
業況	1.0	4.0	3.6	▲5.7	1.0	4.9	▲2.9	▲3.0	▲4.6	▲0.9	2.9	6.9	▲3.0
仕入単価	▲77.0	▲63.0	▲71.2	▲68.1	▲65.7	▲67.2	▲71.4	▲73.8	▲75.9	▲74.3	▲71.1	▲70.6	▲71.5
従業員	34.3	39.0	36.0	26.7	39.2	36.3	35.9	32.7	29.6	37.4	34.3	34.3	37.0

- ・プラス幅が増加したDI値: 従業員2.7ポイント (人手不足局面へ)
- ・プラスからマイナスに転じたDI値: 業況▲9.9ポイント
- ・プラス幅が減少したDI値: 売上▲5.8ポイント
- ・マイナス幅が増加したDI値: 採算▲5.1ポイント、仕入単価▲0.9ポイント

【向こう3か月間の先行き見通しを示すDI】

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
8月回答	6.9	▲2.9	2.0	▲42.2	35.3
9月回答	20.6	2.0	6.9	▲46.1	30.4
10月回答	13.0	▲5.0	▲5.0	▲46.0	31.0

- ・見通しが改善したDI値: 仕入単価0.1ポイント
- ・見通しが悪化したDI値: 売上▲7.6ポイント、採算▲7.0ポイント、業況▲11.9ポイント、従業員0.6ポイント (人手不足局面へ)

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	電気工事	9、10月は売上・採算的にも前年同月を上回る数字の予想だが、今後は少し落ち着くと思われる。
	土木建築工事	物価高のため社員の賃金を上げたいが、燃料と原材料の高騰によりなかなか難しい。
製造業	板金・溶接	主力商品の酒造タンクは今のところ平年並みに受注しているが、日本酒消費量が減り続けている現状の中、この先どれだけ見込めるかはっきりしない。
卸売業	水産物	年末に向けて水産物の仕入価格は高騰。どこまで価格転嫁できるかが課題。
	青果	猛暑の影響から青果物については全体的に品不足が見られ、単価高となっている。また、10月からの食品値上げによる消費の低下が懸念される。
小売業	ホームセンター	8、9月と地震や大雨等が続き、10月に入っても防災・補修関連の需要は高止まると予想している。
サービス業	警備	物価高による仕入れコストの高騰に加え、最低賃金も上昇。価格転嫁のお願いをするため営業総出で顧客回りをしている。
	タクシー	乗務員の減少が激しくなっている。人件費をはじめ経費は増大している一方、社員の減少が売上減少に繋がり、厳しい状況となっている。
	運輸	毎月一定の採用はあるものの、退職者の数がそれを上回り、ドライバーの人員不足が深刻な状況となっている。協力会社も同様に人員不足のため、撤退の動きもみられる。